

# 畜産の祭典 酪農文化祭 第15回岡山県畜産共進会 新見市及び津山市で盛大に開催

本年は種々の関係で畜産共進会は去る10月12日から10月15日まで新見市において和牛の部、乳牛の部は津山市で酪農文化祭の一環行事として10月20日から22日まで津山市においてそれぞれ秋晴の天候に恵まれて盛大に開催された。

去る10月12日から15日までの4日間、第15回岡山県畜産共進会の和牛の部が県主催で盛大に開催された。

今年酪農試験場の施設が完成したので、乳牛部門は津山市で酪農文化祭に含めて行われることになり、和牛のみで昭和30年に続き再び新見市家畜市場で、岡山県畜連の後援、地元新見市及び阿哲郡の協賛によって開かれることになったもので、期間中種々の共替行事も行われ、連日県下から集まった畜産関係者で賑った。

12日は午前8時から出品牛の体尺測定が開始され、続いて開会式の後、総体審査、個体審査が行われ、13日には3回にわたる比較審査が慎重に実施された。

14日には出品牛全頭が新見農業高校校庭に集合し、総合審査の後、多数の参観者の見守る中で上位入賞牛に審査員からブルーリボンが贈られ、祝福の拍手が湧いた。次いで協賛会長、審査長を先頭に新見市中行進に移り、市民の拍手を浴び和牛産地ならではの風景がみられた。午後には上位入賞牛について、種雄牛、2才雌牛、3才雌牛、の別に展示が行われ、それぞれの審査担当者から懇切な説明が行われた。

最終日の15日には上位入賞牛の展示に続いて、午前10時から、荒木県農林部長、県議会農林委員、その他来賓、出品者ら多数の出席を得て褒賞授与式が挙行された。

開会に次いで三木会長（県農部長）挨拶、林協賛会長（新見市長）、大河後援会長（県畜産会会長）挨拶の後、惣津審査長（県畜産課長）の審査報告があった。

次で県会議長（大本県議）、宮本町村長会長、宮崎阿哲畜連会長などから来賓祝辞があり、荒木農林部長から農林大臣賞、県知事賞、優勝旗をはじめ、協賛会

長、各種団体から賞状賞品などが授与された。

この席上同時に永年和牛界に功労のあった真庭郡の川西達太郎氏に知事表彰状を、倉敷市の室山栄三郎、新見市の土井頼祐、渡辺小市、阿哲郡の瀬田梅太郎、勝田郡の福島薫、久米郡の渡辺芳久の諸氏に対して知事感謝状が贈られ、最後に受賞者総代の答辞があつて4日間にわたった共進会の幕を閉じた。

なお、郡市別の団体優勝旗は、授賞点数や出品点数などから再び、最も得点の多かった阿哲、新見地区へ授与された。

## 審査報告

第15回岡山県畜産共進会和牛の部の審査が無事終了いたしましてここに審査の概評を申し述べますことは私の最も光栄とする所であります。

審査は3日間にわたり厳正に実施いたしました。次にその概評を申しのべます。

### 一. 出品資格と出品区分

出品牛はすべて県内産であつて昭和33年6月10日までに生れた登録牛または登記牛で、父母、祖父母とも登録中のものに限定致しておりますが、その上特に雄においては岡山県優良種雄牛生産育成要領による認定牛としております。

以上の資格のもので出品数は雄16点、雌102点となっております。これを各郡市別に分けて見ますと、雄におきましては、阿哲、新見の12点、真庭の2点、小田、総社の各1点であります。

雌におきましては、阿哲・新見の19点、吉備・総社の15点、都窪・倉敷の14点、上房・高梁・川上の10点、真庭の8点、苫田・津山・勝田の各6点、御津・小田・笠岡の各5点、久米の4点、児島・玉野の3点、赤磐・英田の各2点、浅口の1点でありました。

### 二. 審査方針

## 岡山畜産便り1959.11・12

審査は全国和牛登録協会の黒毛和種審査標準に準拠し、あくまで出品牛の現状による比較をもって行いましたが、特に本県種牛の特色として、その美点と考えられます体の緊り、肢蹄、飼料の利用性のよいこと等はこれを伸ばし、欠点と思われる発育及び胴伸びの不足等に基づく体の均称を欠ぐもの、亦資質、後軀等については更に改良を推めるため、これらの点を重要視して審査を行いました。

### 三. 一般概況

出品を総覧しますと、出品が118頭の名数に亘りました関係から、優劣の懸隔がやや目立っていた様に見受けられました。しかしながら2才の雌牛をはじめ優秀なものが数多く出品されて力強く感じました。

雌雄ともに発育体の堅実性、骨緊り、体幅「中軀の充実」背腰、乳徴、角、蹄などにおいては難あるものが殆んどなく確かに共通的な美点といえましょう。しかし詳細に観察しますと、いま一層改良すべき点もみられないわけではありません。即ち後軀の形状と被毛皮膚であります。後軀におきましては従来しばしば指摘されたことなどから尻巾のない所謂尻細いもの、尻長の不足しているもの、下腿及び臀の充実を欠ぐものが見られ、被毛、皮膚においては皮膚が厚く弾力を欠ぎ被毛の粗いものがみられました。

また蹄の管理のよくないもの、肘緊の不満なものなど肢蹄と歩様に改善の要の認められるものも発見され、なお少数ではありますが、過肥のため体のしまりを欠ぐものが見られたことは一考を要しましょう。

つぎに各区分別に概評しますと、雄牛は県において遺伝的に優良なものとして認定したものの16頭でありましたが、中に共進会出品牛として育成管理の不十分なものが数頭みられ、やや一抹の淋しさが感じられました。

発育均称よく特に背腰、資質のよいことは共通した美点でありました。しかし一般に体積に乏しいものが多く、今後育成管理に一層の留意を要する点といえましょう。

1等賞と擬賞したものについて短評を試みますと、7号牛は品位に富み体の均整、しまりに宜敷く背腰は平直でしっかりしており、後軀の状態もよかったです。頸がよくなくやや肩端が荒く感じました。

9号牛は体の釣合よく、肩つき特によく背腰平直で然も資質がよかったです。やや体幅に乏しくせん骨高く、尾つきと飛節に不満がありました。

2号牛は体積に富み、特に資質がよかったです。体幅にとむ反面、4肢と体との釣り合を欠ぎ頸に不満がありました。

### 四. 細部所見

次に2才（生後23ヵ月までのもの）雌牛は出品総数56でありまして何れも発育中途のものにかかわらず非常によく揃い優良牛が多数みられました。特に発育均称、体の堅実性、骨緊りなどには殆んど難点がなく資質も非常に改良のあとがうかがえましたが、尻の形状、下腿、肩先、肢蹄などに不満が感じられました。

3才（生後24ヵ月以上）雌牛は46頭でありまして成熟にほぼ近いものでありますが、何れもよく斉し2才同様その差は極めて認め難いものでありました。

然し発育については標準の中以下のものが46頭中12頭もあったことはいかんなことであります。体型的には中軀の形状特に背腰、肋腹は優れておりますが、胴伸という点、後軀の形状充実について今一考を要すると思えます。

次に上位入賞牛の短評をします。

34号 発育が良く、体各部の均合い及び移行が滑らかで品位、資質の誠にすぐれた牛であります。ただ後軀の形状及び幅に稍難点を認めました。

50号 体積に富み資質が良く、又乳徴も良好で誠に伸々とした牛です。ただ後軀の形状頸の過重及び移行に難点を認めました。

43号 発育良く、体の緊り、品位に富み特に背腰後軀の状態が良く、よく堅実した牛です。ただ体の伸びがやや不足し下けんが浅い点がおしまれます。

72号 体よく堅実し品位に富み、特に体上線、後軀の極めてすぐれた牛です。ただ年令に比較して今一步の体積と資質に難点が認められます。

33号 発育よく、体よく緊り、資質の良い牛ですが体の伸び、後軀、腿の充実になん少難点を認めました。

103号 品位に富み均称よろしく、背腰、資質は誠にすぐれた牛であります。ただ後軀の形状飛節に稍難点を認めました。

109号 発育良く体積に富み、中軀の形状よく背腰、

## 岡山畜産便り1959.11・12

資質はよく、誠に伸々とした牛ですが、頸、後躯の形状に難点を認めました。

116号 発育良く、品位に富み背腰、後躯の形状よく、特に胴伸びは誠によい牛ですが、深み特に腹容を欠ぐ点いかんと認めました。

### 五. 将来改良を要する点

(1) 従来本県産牛の特質でありました早熟性の点に付きましては可成改良され、発育体積、資質は一段と良くなって参りましたが、なお将来肉資源としての和牛の経済性を向上するため、今一層の関心を深めたいと考えるところであります。

(2) 体型につきましては、後躯の形状特に尻、臀腿の充実を図るよう今一段の留意を望みます。

(3) 中躯について肋腹、背腰は常に美点として掲げられておるところですが、一面胴伸びについては指摘されており、これは誠に難しいこととあります。今後の種牛の選定に注意を要するものと思えます。

(4) 次に特に指摘したい点は、種牛としての飼養管理の点であります。早熟性を高める余り、むしろ過肥に陥り種牛としての能力を欠ぐのではないかと思われるのでありますが、経済動物としての立場より、より一層科学的飼養管理を御研究になりたいものと思えます。

### 各郡市別概評

御津＝一般に体がよく堅実し、均称並びに育成調教も良く、よく揃っておったが、将来種牛選定上資質品位に留意されたい。

赤磐・児島・浅口＝発育よく育成によく努力されていたが、体の緊り品位に欠けており将来種牛の選定と育成技術の向上に尚一層の努力を要します。

都窪・倉敷＝多数の出品であり良く育成され、良牛も見られましたが一般に稍過肥の傾向にして、中躯の伸びに欠け稍地低いものが多く肢蹄も弱いものが見られたが、これは将来種牛選定と育成管理特に飼養と運動に注意されたい。

小田＝発育よく体積に富み育成に努力されていたが、品位に乏しく体の緊り資質に難点を認められ、育成管理と種牛、選定改良に特に留意されたい。

井原・後月＝出品が2点であったが稍体の充実に欠け、

資質品位に難点があり、将来育成並びに改良に御努力をお願いします。

総社・吉備＝16頭の多数出品であったが多年の育成地としてよく育成管理され、優良なものが多かったことは平素の努力と考えるが、稍過肥の傾向にあり肢蹄にも難点のものが見られるので将来育成管理に特に留意されたい。

高梁・上房・川上＝体積に富み均称、資質共によく一般に良いものがあつたが、一部を除き品位に欠け体のゆるいものが認められました。将来産牛改良に着意願いたい点と考えます。

新見・阿哲＝開催地元として大量の出品がなされ、稍出品にむりがありました。一般に体緊実し骨緊りよく、品位に富んでおりますが、体積特に体の伸びに乏しく後躯に難点を認め、尚良牛の管理に幾分不足の点が認められました。産牛先進地として改良に一段の御精進を望みます。

真庭＝出品牛は何れもよく揃い、優秀なものが多かったことは特に他地区に比し特筆されることで、その管理においても平素の御努力の賜と敬服します。然し、種牛としての顔品、後躯並びに背腰については、今後特に改良せられたい点と考えます。

苫田＝一般に不揃いで体格、資質共にこの点が認められ、例年の優秀牛が見られなかったことは少々さびしい感でしたが、古来の産牛地として、体型、資質の整備に一層の御精進を願います。

勝田＝体質に富み均称は良ろしいが、一般に品位に乏しく、骨緊り、肢蹄、後躯に難点が認められました。将来種畜の選定と管理に一段の工夫をお願いします。

英田＝今回遠路出品された努力に対しては敬意を表しますが、出品2頭を通じ、地区の特色に欠け、将来特色ある改良方針と体形の整備に御努力を望みます。

久米＝一般に不揃いで、均称、体積に乏しく、品位に欠ける点が認められ、将来改良と育成管理に一段の御努力を願います。

### 擬賞

審査に当っては審査員慎重審議の結果

入賞点数	雄	雌
1等賞	3点	8点
2等賞	3点	19点

岡山畜産便り1959.11・12

3等賞 6点 36点  
4等賞 4点 39点

昭和34年10月15日

第15回岡山県畜産共進会

審査長 惣津律士

を選抜擬賞致しました。

謹んで褒賞の授与を申請致します。

一 等 賞							
牝 の 部							
出品 番号	名 号	生年月日	血 統		産地	出 品 人	売非 区別
			父	母			
7	第 八 津 村	33. 4. 28	第三重利 黒高47	第四しんぶくまつもと 黒高343	阿哲	阿哲郡哲西町 安 田 司	売
9	第 五 山 根	33. 3. 28	第四下前 黒高46	なかまえ 黒134290	新見	新見市上市 阪 井 留 吉	売
2	第 三 新 華	33. 5. 30	第四下前 黒高46	うゑだ 黒高340	阿哲	阿哲郡哲西町 沖 田 洋 美	売
牝 の 部 (2才)							
34	第 三 ゆ た い 六	33. 5. 1	第三安達 黒高30	第三ゆたい 黒高508	真庭	真庭郡落合町 會 根 芳太郎	売
43	第 二 ふ じ は る	33. 3. 23	第一大町 黒高58	第八ふじしげ 黒258425	阿哲	吉備郡足守町 栢 菅 武 尚	売
72	第 十 五 さ わ だ の 二	32. 10. 16	第一大町 黒高58	第十五さわだ 黒253851	阿哲	新見市上市 森 下 市太郎	売
50	し ん ひ さ 八	33. 2. 28	新黒二 黒5530	しんよし 本黒22399	真庭	真庭郡落合町 山根伊右エ門	売
33	う え し ば 二	33. 5. 1	第八長岡 黒4866	かつよ 黒243269	阿哲	倉敷市浅原 室 山 作 衛	売
牝 の 部 (3才)							
103	こ ば や し 二	32. 6. 24	第三安達 黒高30	おだはな二 黒169761	真庭	総社市神在町 森 谷 武 夫	売
109	し ん ま ち	32. 5. 31	山 花 黒高48	のぼる 黒69528	真庭	真庭郡落合町 會 根 彰	売
116	み ふ ね	32. 4. 24	清 谷 黒高38	第六ひさの 黒1004	真庭	上房郡北房町 坂 本 国 男	売

団 体 優 勝	
優 勝	第15回岡山県畜産共進会優勝旗 阿哲畜産農業協同組合連合会
優 勝	岡山県畜産農業協同組合連合会優勝旗 阿哲畜産農業協同組合連合会
優 勝	岡山県家畜商協会優勝旗 阿哲畜産農業協同組合連合会

郡 市 別 授 賞 点 数 表 ( ) 内は牝					
区 分	1 等	2 等	3 等	4 等	計
御 津		3	2		5
赤 磐			1	1	2
和 気					
邑 久					
上 道 ・ 西 大 寺					

岡山畜産便り1959.11・12

児島・玉野				3	3
都窪・倉敷	1	1	5	7	14
浅口・玉島				1	1
小田・笠岡			2 (1)	3	5 (1)
後月・井原			1	1	2
吉備・総社	2	3	7 (1)	3	15 (1)
上房・高梁・川上	1	1	5	3	10
阿哲・新見	1 (3)	3 (2)	3 (3)	12 (4)	19 (12)
真庭	3	4 (1)	1 (1)		8 (2)
苫田・津山		1	5		6
勝田		2	3	1	6
英田				2	2
久米		1	1	2	4
岡山					
計	8 (3)	19 (3)	36 (6)	39 (4)	102 (16)

審 査 員	
審 査 長	
岡山県畜産課長	惣 津 律 士
審 査 顧 問	
中国農試畜産部農林技官	熊 崎 一 雄
審 査 員	
和牛試験場長	加 本 一 久
県畜産係長	林 正 夫
畜産課技師	渡 辺 明 喜
和牛試験場技師	嘉 寿 頼 栄
全国和牛登録協会岡山県支部長	藤 井 英 一 郎
全国和牛登録協会岡山県支部技師	入 江 文 博
全国和牛登録協会岡山県支部技師	柳 井 智 道
岡山県畜産会技師	佐 野 正 民